

--

2026年度

大学院医療科学研究科医療科学専攻「修士課程」

小論文入試問題（一次）

領域名	問題ページ
生体情報検査科学領域	1
医用量子科学領域	3
医用生体工学領域	5

【解答方法について（注意事項）】

1. 400字以上600字以内で、設問に沿った小論文を原稿用紙に作成しなさい。
2. 必ず自分の志望する領域の問題を選択し、解答してください。
3. 他の領域の問題を選択した場合、解答は無効となります。

2025年9月1日（月）

藤田医科大学大学院医療科学研究科

生体情報検査科学領域

以下の文章は、『「わかる」とは何か』（長尾真、岩波書店、2001年）より、抜粋したものである。文章をよく読み、以下の課題について問題番号とともに答えよ。

- 1) 近年の技術と科学の関係の変化について、医療者もしくは医療に関わる研究者として例を示しながら、200～300字で説明せよ。
- 2) 科学技術に対する人類の責任について、医療者もしくは医療に関わる研究者として、例を示しながら、200～300字で説明せよ。

この部分につきましては
著作権の都合により公開いたしません

医用量子科学領域

デジタル医用画像のデファクト・スタンダードとして DICOM (Digital Imaging and Communications in Medicine) が世界的に普及した要因を 3 つ 取り上げ、それぞれ簡潔に説明せよ。

医用生体工学領域

少子高齢化の進行により、2035年には団塊ジュニア世代が高齢期を迎え、日本の医療体制にはこれまでにない規模の負担が生じると予測される。これは「2035年問題」とも呼ばれ、慢性的な医療人材の不足、医療費の増大、在宅医療の急増、地域間格差など、複合的な課題が懸念される。

このような状況において、どのような対策が求められると考えるか。あなたの考えを、具体的な事例や根拠を挙げながら、人工知能(AI: Artificial Intelligence)技術や医療 DX (Digital Transformation) の活用(例:「医療分野におけるデジタル技術の導入・利活用」)を含めて、400～600字程度で述べよ。